

看護学科ディプロマポリシー（本校の期待される卒業生像）

1. 生命の尊厳を理解し、人として尊重できる能力がある。
2. 多様な価値観を尊重し、倫理的な判断のもと看護の実践ができる能力がある。
3. 人を環境と相互に影響しあい生活を営んでいる存在として理解する能力がある。
4. 人を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉える能力がある。
5. 人が生活することを支援するために、根拠をもって看護実践できる能力がある。
6. 看護を実践するために必要なコミュニケーション能力がある。
7. 的確に状況を判断し、問題を解決できる能力がある。
8. 看護専門職者として多職種と連携・協働するための基礎的能力がある。
9. 社会の変化と医療の動向を察知できる姿勢を持ち、広い視野で自ら生涯学習し続けることができる。
10. 看護専門職者として感性を高め、主体的に学習し、看護を探求し続けることができる。

助産学科ディプロマポリシー（本校の期待される卒業生像）

1. 妊産褥婦・新生児の正常経過にかかわる診断とエビデンスに基づいたケアが行える。
2. 妊産褥婦・新生児の異常に対する予測と予防的行動がとれ、緊急時の母子への対応を理解している。
3. 周産期におけるリスクマネジメントをふまえ、分娩の介助が安全に行える。
4. 発達段階やニーズに応じ、集団・個別に対する健康教育・相談・指導が行える。
5. 妊産褥婦とその家族に対する親準備及び育児支援が行える。
6. 妊産褥婦とその家族が妊娠・出産・育児を主体的に取り組めるよう、人間関係を構築し、おもいやりのあるケアが行える。
7. ライフサイクル各期の特徴をふまえ、女性の生涯を通じた性と生殖の健康と権利を守る支援を理解している。
8. 継続的ななかかわりの中で信頼関係を築き、wellness に向かう支援が行える。
9. 地域における関係職種や関係機関との調整、連携を学び、生活に根ざした母子保健サービスの提供が行える。
10. 周産期医療システムを理解し、チーム医療における助産師の役割と責任に基づいた行動がとれる。
11. 自律した専門職としての誇りと責任をもち、助産師としてのアイデンティティが形成できる。
12. 母子の命を尊重し、時代に合わせた倫理的課題に対応できる。